

山口明倫館

文教の中心は萩から山口へ

文久3(1863)年、攘夷決行に備えた藩庁の移鎮により、山口は政治、軍事の要所となった。教育についてもまた同様で、萩の明倫館諸生は概ね山口へ移り、「山口講習堂」は、「山口明倫館」と名を変え、萩に代わって山口が文教の中心となった。

しかし幕末の動乱の中、山口明倫館は、長州征伐のあおりを受け、藩の中樞が萩に戻ったため、元治元(1864)年12月には一旦廃止を余儀なくされた。慶応元(1865)年、再び山口の居館に戻った藩主・敬親の指揮により、廃止から3ヶ月後の3月、山口明倫館は復興した。再び長州征伐が行われる気配もあり、優秀な人材の育成が急務とされた。

山口明倫館の編成

山口明倫館は、文学寮と兵学寮に分かれ、兵学寮は歩・騎・砲三兵塾と三兵学科塾(後に兵学科)があった。また、文学寮には、基礎教育を行う「小学舎」や歴史編纂を行う「編輯局」が附属していた。

時局に応じて、山口明倫館での教育は、軍陣への実用に眼目が置かれ、兵学により重点が置かれた。文においては人材の輩出、武においては有能な士官の養成が、それぞれ第一義とされた。また人材の育成が急を要していたため、騎兵塾を除いては定員を設けなかった。

●文学寮 …国学や漢学を学ぶ

- ・本学寮
- ・漢学寮

小学舎

編輯局

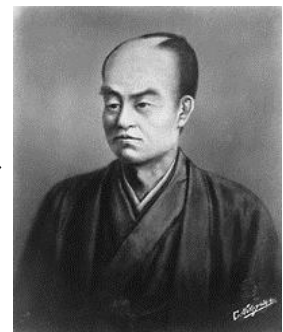
●兵学寮 …洋式兵学を学ぶ

- ・歩兵塾
- ・騎兵塾
- ・砲兵塾
- ・三兵学科塾(1866年～)

三兵教授役・大村益次郎

兵学に重点を置いた山口明倫館では、慶応2(1866)年4月、大村益次郎を三兵教授役として迎えた。益次郎は、近代兵学を教育し、第一線で活躍できる士官の養成に尽力した。その一方で軍政用掛も兼任し、藩における軍政面の指導者として活躍した。

明治維新後は、新政府に出仕し、戊辰戦争における軍事的手腕は有名である。その後も軍事関係の要職を歴任した。



大村益次郎

国立国会図書館「近代日本人の肖像」より転載

明倫館までの予備的教育

藩では明倫館の他に、小学舎や郷校を設けて領内全域において教育の振興をはかり、人材の登用を行った。小学舎及び郷校を修了した優秀な者は、明倫館へと進学するルートができあがった。

●小学舎 …明倫館入館までの基礎教育

山口講習堂で行っていた小学教育を引き継ぎ、正式に制度化したもの。文学寮に附属した。

16歳になると、歩兵塾で90日間の基礎訓練を受け、明倫館に入学

【対象】7、8歳～15、6歳の藩士子弟 →慶応元(1865)年の再興以降、身分の区別なく入学許可

●郷校 …地方の教育振興と人材育成

慶応3(1863)年、藩は諸郡の勘場付近に郷校設立。藩から毎年米500石の支給があり、庶務は代官所、学事は両明倫館が管理した。

16歳になると、代官が臨校して試験を行い、優秀な者は明倫館に入学

【対象】8歳～15歳までの在郷諸士。希望に応じて一般(陪臣・寺社家・農民・町民)の子弟も入学許可

明治新体制とともに

明治維新後、藩は職制を改定し、山口・萩両明倫館学制を統括する学校主事を長官として各1名置くこととした。これにより、両明倫館は領内の最高学府となると同時に、教育行政の中枢を兼ねることとなった。

幕末山口市街図(山口県文書館所蔵)

